

佐賀大学教育学部 附属小中学校 教育研究発表会 2023

道徳科 当日資料

- | | |
|------------------|-------|
| I 本研究について | P1~P2 |
| II 本時までの授業について | P3~P4 |
| III 道徳授業の単元化について | P5~P6 |

<資料> 第2学年 これまでの道徳学習 全板書 P7

令和5年7月24日(月)

佐賀大学教育学部附属小学校

道徳科 田中 大介



I 本研究について

ここでは、道徳科の研究内容について示していきます。詳細は道徳科要項をご参照ください。

1 単位時間ごとにテーマに即した課題を児童の「問い」から立てる導入の工夫

児童が本時で扱う道徳的価値についてどのような認識をもっているのか、または教材文を読んだときにどのようなことを感じ、疑問に思ったのかを十分引き出す必要があると考えています。具体的には、教材文を読む前に児童の日常生活で感じていることについて事前にアンケートで調べていたことを紹介したり、直接聞いたりします。その後教材文を読み、「何か気になることはありますか。」と問います。ここで児童の自由な感想を引き出し、感じたことや疑問を整理していきます。そしてこれから考えたいことを問い、出てきたものを本時の課題とします。児童のもっている「問い」を明らかにし、そこから授業を組み立てていくことで、児童の学びの文脈に沿って、自分事の学びに向かう児童の姿を引き出すことができると考えています。本時における課題形成が、児童の問いから引き出されたものだったか、ご検討いただければと思います。

2 児童の思考をつなげる発問（「基本発問」と「補助発問」）の工夫

「基本発問」とは、指導案上に示される「主な発問」や「中心発問」のことです。「補助発問」とは児童の発言に対して行う教師の切り返し、揺さぶりのことです。私は、基本発問で授業の骨格をつくり、補助発問で児童が考えを深められる状況に導くことが重要だと考えています。

基本発問については、柳沼(2018)の『問題解決的な学習をつくるキー発問50』を活用し、発問の意図によって分けられた8つの類型(表1)を基に、児童や教材に合った発問を考えています。

表1 発問の8つの類型

①問題発見的な発問（何か問題になっているか？ なぜ問題が生じたのか？ など）
②問題解決的な発問（登場人物はどうしたらよいか？ どうしたら互いに納得できるか？ など）
③吟味を促す発問（その言動の結果、どうなるのか？ どうしてそうする（した）のか？ など）
④批判を促す発問（本当にそれでいいのか？ その考えは本当に正しいのか？ など）
⑤創造を促す発問（その考えに改善点はないか？すでに学んだ知識や技能は使えないか？ など）
⑥汎用を促す発問（日常でもこの考えを生かせるか？ 学びを今後はどう生かせるか？など）
⑦自我関与を促す発問（自分だったらどうしただろうか？登場人物の言動をどう思うか？ など）
⑧価値追求を促す発問（なぜ〇〇は大切なのか？ 本当の〇〇とは何か？ など）

次に補助発問についてです。これは、どの教科学習においても重要なものだと考えています。児童の発言やつぶやきをそのままにするのではなく、切り返し、揺さぶることで、考えを皆で共有したり、より具体的なものにしたり、発展させたり、さらには本音を引き出ししたりすることができます。補助発問についても、行き当たりばったりで問うのではなく、ある程度事前に想定しておく必要があると考えます。私がよく使う補助発問をまとめたものが下記のもので表2)。

表2 目的別補助発問の類型

目的	切り返し・揺さぶりの具体例
確認	・納得？ ・〇〇さんの考えわかる？ ・今の考え、どう思う？ ・〇〇した（しない）ほうが良いと思うんだね。
理由付け	・どうしてそう思うの？ ・うなずいているけど、どうして？
言い換え	・同じ？じぶんの言葉で言ってごらん。 ・関連している人いる？ ・〇〇さんの意見に似ている人いる？
具体化	・〇〇ってどういうこと？ ・詳しく教えてくれるかな？
比較	・〇〇と△△、似ているけどちょっと違うね。 ・〇〇と□□、どっちが良いの？ ・〇〇と☆☆は、どう違うの？
批判・反例	・本当にそれでいいの？ ・ばれなきゃいいんじゃない？
条件変更	・〇〇の立場から考えると、どうだろう？ ・もしこの時、〇〇だったらどうする？

これらを参照していただきながら、本時の教師の発問が児童の思考をつなぐために有効だったか、ご検討いただければと思います。

3 児童が学びを関連付けるためのポートフォリオの作成

授業の終末には必ず学びを振り返る時間を設定します。ここでも、視点をもって振り返りができるようにしています。①自己と重ね合わせて考えることができたか。②友達の考えに「なるほど」と思ったことがあったか。③これからの自分に生かせそうなことはあったか。この3つについて選択したり、記述したり、発表したりする時間を設定しています。視点をもって学習することで、自分の学びを実感できるとともに、次の授業の時にその視点で学習に臨むことができます。道徳科授業の意義を、児童自身が見いだすことができるようにするためにも、振り返りの充実は重要なのだと感じています。本単元では3つの視点を自己評価し、その具体を色つきの欄に簡単に書きます。青→自己と重ね合わせる 赤→友達の考え 黄→これからの自分と対応しています。このふせんを書き溜めていくことで、自分がどんなことを考えながら学び進めていったのかを自覚的に取り組めるようにしたいと考えています。

また、今回は3時間を小単元で扱い、それぞれのつながりを意識して学ぶことができるようにするために1枚のポートフォリオに学びを蓄積していきます。図1は、本時で使っているポートフォリオです。

どうとく がくしゅう 「友だちと なかよくなるために」		2ねん 3くみ
1じかん目 <small>あらがらみずぎ</small> 人のいいとをかんがえられた。	2じかん目 <small>およげないうすぎ</small> りすさんがだめってゆれてもいきたくてずいってればちよつとだけ考えてやっ後のか考えれたと思う。	3じかん目
これまでの 自分	これまでの 自分	これまでの 自分
友だちの いけんに なるほど	友だちの いけんに なるほど 友だちのりすさんの気持になるよってのをきかせるよって思いました。	友だちの いけんに なるほど
これからの 自分 これが人のいいとを考えたよってかえり思っています。	これが、これがいいこれのいいか、これならよく考えようと思	これからの 自分
たんげんの ふりかえり ~3つの 学しゅうを とおして かんじたことを かきましよう。~		

図1 本単元のポートフォリオ

上段は各授業での中心発問に対する自分の考えを書き、中段が3つの視点を4段階で自己評価します。そして下段のあいたところに授業中にメモしたふせんを貼り付けます。そして、最終的にそれらの蓄積を見ながら、単元の振り返りを書く欄を設けています。このポートフォリオがうまく機能していたかについてもご意見をいただければと思います。

【引用文献】

柳沼良太、竹井秀文(2018)『「問題解決的な学習」をつくるキー発問50』明治図書

【参考文献】

西野真由美、鈴木明雄、貝塚茂樹(2017)『「考え、議論する道徳」の指導法と評価』教育出版

浅見哲也(2021)『道徳科 授業構想グラウンドデザイン』明治図書

日本道徳教育学会(2021)『道徳と教育 第339号』日本道徳教育学会事務局

日本道徳教育学会全集編集委員会(2021)『幼稚園、小学校における新しい道徳教育』学文社

II 本時までの授業について

1 単元前の児童の様相

4月の道徳開きの時間、児童に「道徳の学習でどんなことを考えていきたいですか。」と尋ねました。すると、多くの児童が「友達と仲良くするにはどうすればいいか」「けんかをなくす方法を知りたい」といった、友達との関係について考えたいと答えました(図2)。学校生活の中で、いかに友達と仲良く過ごすかということは、児童にとってとても大切なことだと捉えていることが分かります。それらの児童の様子から、じっくり友達について考える時間をつくる必要性を感じました。

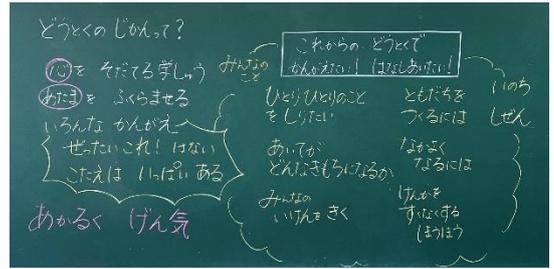


図2 道徳授業開きの板書

7月までの4か月間で、新しいクラスの友達との関係性も随分深まり、新しい友達と楽しく話をしたり、外で元気に遊んだりといった光景をよく目にするようになりました。しかし、時間が経つにつれ、関係性が深まるにつれて増えてきたのは「けんか」です。友達になったとはいえ、まだまだお互いのことをよく知らない同士。「これくらいならいいだろう」と何気なく言った言葉が、予想以上に相手を傷付けてしまっていたり、「分かってくれるだろう」とおもってとった行動が、思いがけず相手の反感を買ったりと、関係性の深まりに準じて起こるトラブルが増えてきました。

そして今、それらのトラブルについて考えながら学校生活を送り、夏休みを迎えることになったわけですが、夏休み前にもう一度友達のことについて深く考える機会をつくりたい、と考え、本単元を設定しました。

2 前時までの児童の様相

(1) 1時目の様相

図3 1時目の板書及び流れ

1時目は『きらきらみずき』を取り扱い、自他の個性について考えました(図3)。導入では、これからの単元のテーマを伝えるとともに、自分のよいところを言えるか尋ねました。言えるのは4人、言えない、分からないのは27人。圧倒的に言えない、分からない子が多いことにびっくりしました。

展開では、『きらきらみずき』を読んで感じたことを交流します。「自分にはよいところがない」と悩むみずき、友達や家族から自分のよいところを教えてもらって喜ぶみずきの姿を捉えました。

そして「今日は何をしたいですか」と尋ねると、「自分のよいところを友達に教えてもらいたい」との声が。そこで、互いに友達のよいところを書いてプレゼントし合う活動をするようになりました。最初は

隣の友達と、そしてクラス全体での交流に発展し、児童は、友達のよいところを考えながら、自分のよいところを知ることができました。自分の個性を自覚するために、友達によいところを教えてもらって嬉しい。友達が自分のよいところを知ってくれていて嬉しい、という気持ちになったようです。

(2) 2時目の様相

The figure illustrates the board writing and flow of the 2nd lesson. It is divided into three main sections:

- Top Section (Chalkboard):** Contains handwritten notes and diagrams. Key phrases include "友だちと なかよく なるために" (To get along with friends), "およげない りすさん" (I can't swim, Risa), and "どうすればいいだろう" (How should I do it?). There are also notes about "自分か手" (my own hand) and "どうしてきりかえたの?" (Why did you change?).
- Bottom Left Section (Text):**

友だちと なかよく なるためには…

ほめてもらおうと うれしい!

よいところを 見つけるのは 大切。

はなしたり あそんだりすると しぜんとも

でも なかまに 入れてくれない こともある。

どうすればいいだろう
- Bottom Middle Section (Text):**

じぶんのこと…14にん
わたしは1かいてもとわられたことはなかった。ドッジボールをするつもりが、人数が少なくできなかったことがある。これまでは、あんまり友だちをいれてなかった

ともだちのいけん…20にん
しんのすけさん…口に出す前に考える。
ほのかさん…みんなであそべるあそびをする。いつきさんのいけんといっしょでびっくり!

これから…16にん
その人ができるあそびを考えたい。どうやったらできるか考える。みんなびょうどうにあそべるあそびをする。みんなのことを考える。
- Bottom Right Section (Ovals):**
 - 口に出す前に考える
 - あいての気持ちを考える
 - だれとでもなかよく

図4 2時目の板書及び流れ

2時目は『およげないりすさん』を取り扱い、公平に接することについて考えを深めました(図4)。

導入でテーマについて触れると「友達にほめてもらおうと嬉しくなって仲良くなる」「よいところを見付いたら仲良くなれる」といった、前時に関連した意見が出てきました。また「話したり遊んだりしていたら自然と仲良くなるよ」という意見に「でもこの間遊びに入れてもらえなかった」という後ろ向きな発言が。そこで、「どうして入れてくれないんだろうね」と尋ね、意見を引き出しながら教材との関連を図りました。

展開前半では教材を読んで「何か気になることはありましたか」と尋ねると、「泳げないりすさんをなかまはずれにしてるからダメ」「さべつだと思う」といった道徳的問題場面が挙がってきました。それらをもとに「今日考えたいことはどんなことですか」と尋ねると「なんでりすさんは帰っちゃったのか」「なんでおよげないからってダメって言ったの」「どうすれば最初から考えられていたか」「なぜ気持ちを切り替えたのか」などたくさんの問いが出てきました。その中でも児童の同意の声(「あー」や「にてる」など)の多かった「なぜ気持ちを切り替えたのか」「どうすれば最初から考えられたか」の2つについて考えることにしました。それらの問いについて出てきた意見は、板書の通りです。

展開後半では「実はこのお話には続きがあってね」と呼びかけ「次の日に木登りをする事になったけれど、かめさんだけ木に登ることができません。4匹はどうしたと思いますか」と問いかけました。すると児童はかめさんのための色々なアイデアを出しましたが、大きく2つの解決策が出されました。「みんなで協力してかめさんを木に登らせる」「みんなでできる遊びを考える」という2つです。どの意見も、かめさんのこと、みんなのことを考えた行動であったことを価値付け、授業を終えました。

3 本時に向かうにあたって

1時目には「自他のよいところ」を認め合い、2時目には「皆で楽しく過ごすために大切なこと」について考えていきました。本時である3時目は「仲良しの友達が不正を行ったときにどうするか」について考えていきます。1時目や2時目で気付いたことや感じたことと比較したり、関連付けたりしながら総合的に自分なりの納得解を見いだす児童の姿をお見せすることができればと思っています。

Ⅲ 道徳授業の単元化について

本校道徳科では、これまで3年間、道徳授業の単元化について研究を進めてきました。ここでは、そもそものように単元を構想するのか、について、これまでの実践を基にまとめたものを紹介します。単元を構想するにあたっては、以下の3つの視点で教材を組み合わせることが効果的ではないかと考えます。

1 同じ内容項目を関連付ける

単元構想① 同じ内容項目を関連付ける

第2学年 しぜんこのいち D(18)自然愛護
身近な自然に親しみ、自然のもつ素晴らしさを感じることで動植物の命を慈しみ、大切にしていこうとする心情を養う。

単元構想① 同じ内容項目を関連付ける

第2学年 ごめんね みなみ D(18)自然愛護
人間の何気ない行動が動植物に大きな影響を与えていることに気付き、動植物のためにできることを考え、大切にしていこうための判断力を育てる。

第2学年の【自然愛護】の学習です。
1時目『しぜんこのいち』の学習では、教材を読んで自然の中に様々な命が存在していることに気付き、自分たちの身近にある自然を実際に探す活動を通して、すべての動植物には命があり、それを育む自然を大切にしたいという思いをもてるようにしました。授業後、児童用端末を用いて自然を感じる写真を撮る活動を休み時間などに行い、自然に関心をもって学校生活を送れるようにしました。
そして次の週に2時目『ごめんね みなみ』を行います。この教材は動物園の人気者、きりんのみなみが、お客さんの捨てた大量のビニール袋を誤って食べてしまい、命を落とすという話です。これまで自然の素晴らしさを口にしていた児童は当然怒ります。自分事としてみなみの死に向き合う中で、自然や命を大切にするために何が必要かを考えました。
このように、同じ内容項目を関連付けることで、ねらいとする内容項目についてより自分事として捉え、そこに含まれる道徳的価値についての考えを深めることができます。

2 相対する内容項目を比較する

単元構想② 相対する内容項目を比較する

第5学年 ミッキーマウスの誕生 A(5)希望と勇気、努力と強い意志
自分の目標をもって努力し、自分を向上させることの大切さについて考えることを通して、より高い目標を立て、信じたことに希望をもってくじけずに努力しようとする心情を育てる。

単元構想② 相対する内容項目を比較する

第5学年 手品師 A(2)正直、誠実
誠実に生きることのよさについて理解し、明るい心で誠実に生活しようとする態度を養う。

第5学年の、2つの内容項目を比較する単元です。
1時目『ミッキーマウスの誕生』の学習では、数々の困難を乗り越えて、世界的に有名なキャラクターを生み出したウォルト・ディズニーの生き方から、目標に向かって努力することの大切さについて考えを深めることができました。
そして次の週に2時目『手品師』を行います。この教材は、男の子に手品を見せる約束をしたあまり売れない手品師が、大劇場で手品を披露するチャンスを得るも、悩んだ末に男の子との約束を優先したという、有名なお話です。展開場面では、手品師が男の子との約束を優先した理由を考えているときに「大劇場を選ぶのはダメなことなのか」という話題になりました。すると「大劇場を選ぶことも自分の夢や目標に向かって誠実なのではないか」という声が上がりました。これは前時のウォルト・ディズニーの生き方に重なります。それらを比較する中で、自分にとっての誠実さとは何か、ということを考えていきました。
このように相対する内容項目を比較することで、道徳的価値同士の葛藤を生み、それぞれのよさを比較しながら、多面的・多角的に考えることができます。

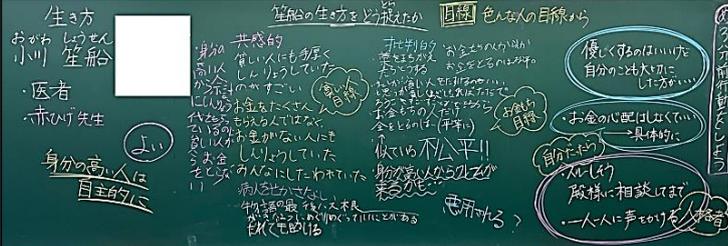
3 様々な内容項目から総合的に考える

単元構想③様々な内容項目から総合的に考える



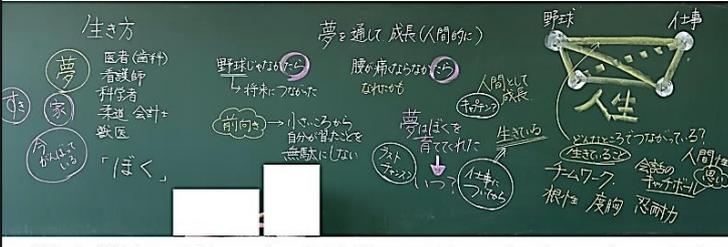
第6学年 マザー・テレサ C(14) 勤労、公共の精神
マザー・テレサの生き方を通して、社会に対し奉仕することの意義を理解し、公共のために役に立つことへの意欲を高める。

単元構想③様々な内容項目から総合的に考える



第6学年 小川笹船 D(22) よりよく生きる喜び
人間がもつ強さや気高さに気付き、よりよく生きようとする心情を育てる。

単元構想③様々な内容項目から総合的に考える



第6学年 夢 A(5) 希望と勇気、努力と強い意志
より高い目標に向かって、くじけずに努力しようとする態度を育てる。

第6学年の、様々な内容項目から総合的に考える単元です。

1時目導入で「どんなふうに生きていきたいですか」と問うと、「家がある生活」「いつもの日常を大切にしたい」「お金を稼ぎたい」といった人生全体を見通したときにこうありたいという意見と、「通訳の仕事をしたい」「料理関係の職業に就きたい」といった将来の夢に関わる意見が出てきました。

1時目『マザー・テレサ』の学習では、貧しい人々のために人生を捧げたマザー・テレサの生き方を知り、その価値について共感的、批判的に捉え、議論する中で、社会に奉仕することの意義について考えました。

そして次の週に2時目『小川笹船』を行います。貴賤に関係なくすべての人が人間らしく生きるために尽くした小川笹船の生き方を知り、その価値について1時目と同じく共感的、批判的に捉え、議論する中で、誰もがよりよく生きるために大切なことについて考えました。

最後は3時目『夢』の学習です。夢に向かってひたむきに努力をしてきたが夢破れ、今は一般企業で働いている「ぼく」の生き方から、努力の価値について考え、自分に生かせるものはないか考えました。

3時目の終末に、3時間を通して改めて「どんなふうに生きていきたいですか」と問うと、「マザー・テレサのように人のためになることをしたい」「夢をあきらめずがんばることが、将来どんな職業についたとしても役に立つと思った」など、3時間の中で特に心にのこったことを選択的に記述したり、「これまでは漠然と楽に生きていたいと思っていたけど、何

か人の役に立つことをするのもいいと思った」といった、自分の心境の変化について記述したりしていました。このように、3つの内容項目を同じテーマのもとつなげていくことで、テーマについて総合的に考えながらそれぞれの考えを交流する中で、一人一人の納得解につなげることができます。

どの方法にしても、それぞれの学習をつなげて考えていくことは、道徳的価値についてより深く理解したり、自分事として考えたり、多面的・多角的に考えたりするために有効な方法だと考えます。

児童の実態からテーマを設定し、テーマに沿った形で教材を選定して単元を構想することは、児童がよりよい生き方を模索するための1つのきっかけになるのではないのでしょうか。ぜひ、取り組んでみてください。

<資料> 第2学年 これまでの道徳学習 全板書

道徳 授業開き

どうとくのじかんって?

これからの どうとくで かんがえて!! (ははあかいた!!)

あはるく げん気

ひとり(ひとり)のこと ともたうを つるには せん

あいてが とんじまうになるか

けんを すく(すく)る (まほう)

黄色いベンチ C(10)規則の尊重

自分勝手な行動が人の迷惑になることに気付かせ、きまりや約束を守り、みんなが使う物を大切にしようとするための判断力を育てる。

子だぬき ポン A(2)正直, 誠実

正直に生活することのよさに気づき、うそをついたりごまかしたりすることなく、素直に伸び伸びと生活しようとする態度を養う。

絵がすき 海がすき A(4)個性の伸長

好きなことを続けながら自分らしく生きた長谷川さんの生き方を通して、自分らしさを大切にしていこうとする心情を育てる。

がんばれ ポポ A(5)希望と勇気, 努力と強い意志

つらくても頑張り通すことの大切さ、やらなければいけないことを自分の力で成し遂げた喜びと充実感について考え、自分でやらなければならないことは、つらいことがあっても最後までやり抜こうとする意欲を高める。

おふろプール C(13)家族愛, 家庭生活の充実

今に至るまでの自分と家族との関わりを思い出したり、自分に対する家族の気持ちを考えたりすることの大切さを理解したりし、進んで家族のためになることをしようとする心情を育てる。

おにいちゃん, しっかり A(3)節度, 節制

健康や安全に気をつけることや物やお金を大切にすることの大切さを改めて理解し、身の回りを整え、わがままをしないで規則正しい生活をしようとする態度を養う。

オレンジ色の木のみ C(10)規則の尊重

みんなの必要なものを大切に、他人に迷惑をかけずに生活することがよりよい生活につながることに気づき、約束やきまりを守ろうとする態度を養う。

森のみんなと C(12)勤労, 公共の精神

自分たちが行った仕事が進んでみんなの役に立つことに気づき、そこにうれしさが生まれたり、やりがいを感じたりするような心情を育てる。